

今の現実と25年前の話。私は36歳、アナタは何歳でした？

公園に住み続ける理由の説明責任は、大人にある？

住民票・戸籍の不明、自分の自負、それで少年等は得心するだろうか？

26日の毎日新聞朝刊に、公園で仮小屋生活をする人々が、少年たちに「襲撃」されていたという記事がありました(裏面下に紹介)。フリガナ無しです。ごめんなさい)。

今から25年前には、四天王寺境内で野宿していた人たちが、エアガンで撃たれるという事件がありました。当時、36歳で日雇いの鉄筋工だった私は、けしからぬ事と思い、朝日新聞に投稿したり、電話をかけたりして、多くの人に伝えようと努力しました(それは、裏面に、フリガナ付きで紹介しています)。

9月26日付毎日新聞記事で、「ここに住むな」と叫んだという少年たちは、25年前には生まれていません。下の写真は、99年に写したものです。今から12年前。とすると、この年に生まれた子どもが、今年、中学生となったと思われれます。

西成公園に仮小屋があるのは、随分前からですし、長く生きている大人、公園に住んでいる人にとっては、「当たり前」となっているかも知れませんが、中学生

たちにとっては、目新しいことであり、「みんなの公園を独占するけしからん光景」と見えたかも知れません。怒られることを承知でいえば、私も、こんなに永い期間、公園で人が住み続けることになろうとは、想像していませんでしたし、今の状態が、望ましい状態であると

は考えていません。この25年間、生活保護制度の活用仕方ケ崎も大きく変わりました。もし、公園に住み続けたら、大人の側に、少年たちに対して、住み続ける理由を説明する責任があるのではないのでしょうか。



▲1999年(今から12年前)西成公園で。小屋の中で亡くなっていた人を悼んで、隣人が小屋そのものを祭壇にしていた。

## 背景に社会全体の無知（1986年11月5日 朝日新聞「手紙」欄）

大阪の四天王寺境内で野宿を余儀なくされていた労働者らをエアガンで襲撃した少年たちは、「面白半分に行った」と言っているそうだ。面白半分に行ったものであれば、しかりつけられた時点でひるみ、逃げ出すのではあるまいか。いや、野宿を余儀なくされている人々、しかも寝入っている人を撃つということが「面白半分」という動機でできることなのだろうか。一面しか言い得ていないと思うが、私の体験から言わせてもらえれば、社会的無知と差別であると思う。

83年5月に大阪府警南署が、管内で野宿している人たちに対し、指紋押なつを強要し、上半身の写真をとっていることを知り、大阪弁護士会に、日雇い労働者への人権侵害であると訴えたことが、新聞で報じられた時のこと。一人の女性から次のような電話があった。／「あなたたちは何を考えているのですか。今の繁栄する日本の中で、大の大人が、自分の力で、寝る所も確保できず、食べることもできないなんて、本人がよほどグウタラで、なまけ者だからでしょう。

そんな人たちに人権があるなんて、どうして騒ぐんですか」

野宿を余儀なくされている人と話をしたことがあるか、なぜ野宿をしているかを知ろうとしたことがありますか、と聞き返したところ、「野宿者に知り合いもないし、知りたいとも思わない」という答えだったので「じゃ、なぜ、グウタラでなまけ者だとわかるんですか」と重ねて聞くと、黙り込んでしまった。／この女性と同じように少年たちも、社会的無知の状態で、野宿を余儀なくされている人々をべつ視、差別していたからこそ襲撃したのだと思う。

大阪市教育委員会は、「社会的弱者に対する暴力は教育の原点にかかわる問題」として、市立校の全校に人権教育を徹底するよう指示したと報じられたが、果たしてどれほどの教職員が、野宿を余儀なくされている日雇い労働者について、釜ヶ崎(行政のいうあいりん地区一帯)について知っていることだろうか。市教委によれば、当面、各学校ではホームルームの時間に、襲撃事件についての新聞記事をもとにして討論することになるそうだが、教師自体に深い理解を伴わない人権教育は、差別意識をより激化されることにつながると考えるのは杞憂(きゆう)に過ぎるだろうか。

大阪市 松繁逸夫(日雇い鉄筋工36歳)。

## 襲撃も汚職も同根（1986年10月15日 朝日新聞「はい社会部です」欄）

こんどの野宿労働者襲撃事件は、あいりん地区で起きている汚職事件と根っこは同じと思う。大阪市の福祉行政予算がだんだん削られ、良心的な職員でも上司から「金を使うな」と言われるとやる気をなくす。ケースワーカー同士で「あいつは労働者寄り」と思われぬよう監視し合い、職場の空気が荒れる。そこから汚職も自殺も出てくる。一方、福祉が切り詰められると野宿せざるを得ない人が増えてくる。少年たちは勝手に「追っ払ってもいい」と思って、あんな事件を起こす。大阪市は福祉を切るな、と大きい声で言いたい。大阪市西成区 日雇い鉄筋工 松繁逸夫(36)

## ホームレス襲撃：中学生？集団で 大阪の公園（毎日新聞 2011年9月26日 10時08分）

大阪市西成区津守1の公園で、ホームレスが6月ごろから、若者グループから石を投げられたり、ロケット花火を打ち込まれたりしていたことが分かった。「ここに住むな」などと大声でののしられたという。大阪府警西成署は警戒を続けている。

公園でテント生活を送る男性(60)によると、グループは10～15人ほどで、ホームレスのテントや小屋に石や花火を投げつけた。支援団体や警察が警戒を強化した8月半ばごろには被害は収まったが、7月中旬のピーク時には毎日のように襲われたという。

男性は、グループについて「体つきなどから中学生くらいの少年に見えた」と話しており、西成署に被害を申告したという。この公園ではホームレス約25人が小屋やテントの中で生活している。【高橋隆輔】